

みどりの風

☆ 「あいさつ」と「歌声」と「花」の学校 ☆

加茂市立石川小学校
学校だより 通算 331 号
(令和3年度 第11号)
令和3年10月8日

「文化祭」での絵の見方・感じ方

ここがいいなあ！ここが好きだよ！



まだ私が担任だった頃、時間をかけて作品制作に取り組んでいたことを思い出します。当時まだあった土曜日などには、弁当を持ってきてもらい、明日が文化祭だというのに、午後3時くらいまで取り組んだこともありました。子どもが「もっと描きこみたい」と言って、文化祭前日まで作品が仕上がらなかったからです。でも、本気になって描き上げた作品には、その子の達成感・充実感とできた作品への自負がありました。

今、授業の中では、仲間の発言や説明に対して、「いいじゃん」「なるほど」「ナイス」と肯定的に反応できるよう指導しています。絵も同じです。友達と作品を見合っていて、「この色いいね」「この構図、好き」「ここ、細かく描けている」…、そういった言葉を発してほしいと思います。「どうやって塗ったの?」とか「ここ、～するといいよ」と、学級の仲間で聞き合ったり教え合ったり…。そんな環境の中で作品を描いていると、個々の作品の質もどんどん高まっていくはずです。

子どもたちには、絵をみる力も伸ばしてほしいと思っています。美しい「物」、心動かされた「物」に対して、素直に感動する(できる)心を育てたいものです。文化祭では鑑賞の時間があります。他のクラスや他の学年の作品に出会ったら、『この形いいなあ』『この色、素敵だ』『この場面(構図)、どうやって描いたのだろう』『あっ、この人物の表情、好きだ』…とつぶやいてほしい(今、実際の声では難しいので、心の声と記述で)。作品の良さ、美しさ、巧みさを心で受け止め、表現する。作品と対話する(できる)。私はそういった力(感性)を伸ばして(身に付けて)ほしいと思っています。「美しいと感じる心」「作品の良さやお気に入りを見付けること」は、人間が生きていく上でとても大事なことだと思います。今回は「友達の作品」についてですが、ここで培った力はいろいろな所でも生かれます。市内・外で行われる作品展や美術展(場合によっては音楽や歌等)でも、好きな作品や良さを見付け、声に出してつぶやいたり作品と対話したりしてみしてほしいです。

文化祭当日は、絵の鑑賞、バザー、体験教室などがあります。これまでバザーの準備・運営にご協力をいただいた PTA 役員の皆様、本当にありがとうございました。



新潟県いじめ問題対策連絡協議会としての共通メッセージ

■令和2年12月に制定された「新潟県いじめ等の対策に関する条例」を踏まえ、いじめを防ぎ、県民みんなで児童生徒が健やかに成長することのできる環境の整備に取り組む。■いじめは、いじめを受けた児童生徒の心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は心身に重大な危険を生じさせるおそれがある。■いじめの問題は、児童生徒だけの問題ではなく、心豊かで安全・安心な社会をいかにしてつくるかという、県民みんなで考えていくべき課題である。■新潟県いじめ問題対策連絡協議会では、いじめに悩む児童生徒を救うために、学校、家庭、地域、その他関係機関が強いネットワークをつくり上げる。■「いじめをしない! 決して見逃さない! 決して許さない!」「見て見ぬふりはしない! みんなで声を掛け合う!」を合い言葉にして、いじめ防止に全力で取り組む。■「SNS等の危険性に関する保護者・地域への意識啓発」と「家庭での望ましいネット利用のあり方」に焦点を当てた取組を展開し、いじめの未然防止に努める。■今年度は「感染症に関するいじめの防止」に県民全体で取り組む。

これは、「新潟県小学校長会長」名で届けられた文書の一部です。各学校長が、児童や家庭に伝えたり、職員会議や校内研修で職員に指導したりするための文書です。これらのメッセージを生かし校内の取組につなげていきます。特に、7つめの「感染症に関するいじめの防止」については、前号の学校だよりでお伝えしたとおりです。6つめの「SNS等の危険性」「望ましいネット利用」については、石川小で「ネット利用に関する講演会」を実施し、地域・家庭・職員みんなで考えていこうと思っています。なお、「ネット利用の我が家のきまり」については、石川小の保護者の方からお手紙をいただいたので、今回紹介させていただきました。

3つめに書かれてあるように、いじめの問題は、県民みんなで考えていく課題だと思います。子どもに指導する私たち大人がまずは襟を正さなければなりません。学校のみならず、家庭・家族、地域や社会(勤め先等)でも話題にしながら、いじめ根絶を目指す社会をつくり上げていきましょう。ご協力をお願いします。